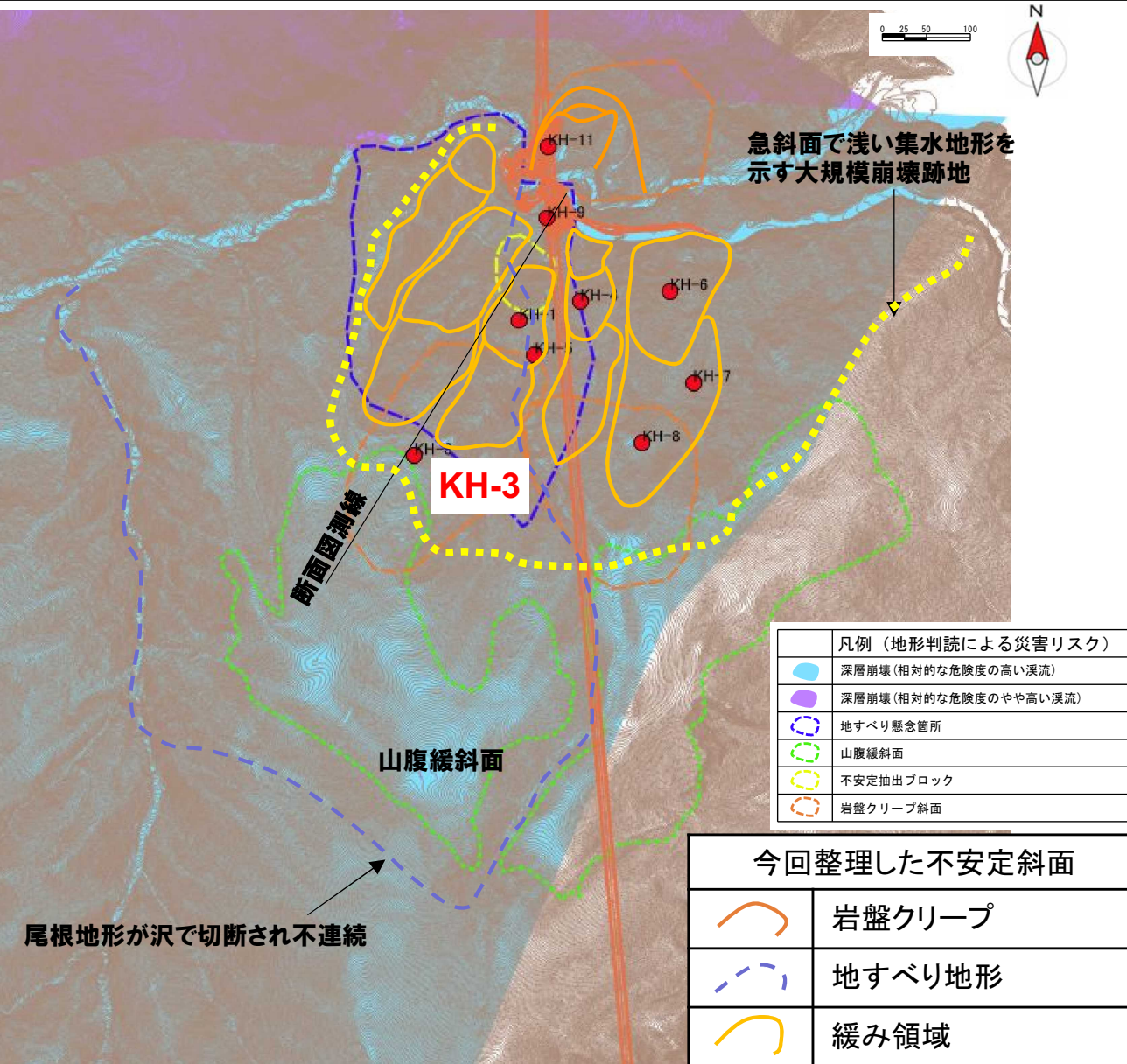


3. 災害危険性の確認結果（桑畑地区現道接続部）

■ 今回の整理結果

【これまでの調査結果の再確認と広域地形判読による不安定斜面の整理】

これまでに実施された11箇所（KH-1～KH-11）のボーリング調査、4測線の弾性波探査を再確認するとともに、広域の地形判読を行い、不安定斜面の整理を実施した。



【整理結果】

■ 北側斜面

現地踏査、弾性波探査、調査ボーリングから計画ルート周辺の岩盤クリープを抽出。

■ 南側斜面

- 既往ボーリングコアによる風化の程度が異なることや山頂緩斜面の分布から地すべり地形を抽出。
- ボーリング結果により層厚15-20mの緩んだ岩盤を確認。トンネル周辺に分布する小領域に区分。（緩み領域）

地すべり地形抽出の考え方

KH-3

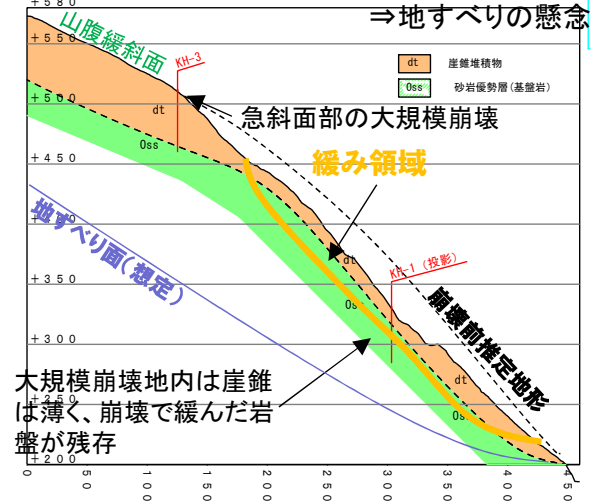


【調査結果】

- KH-3では、深部まで褐色風化した岩盤が分布
- 崖錐堆積物が厚く分布

【地形的特徴】

- 山腹緩斜面の存在
- 馬蹄形状につながる沢地形の存在
- 尾根地形が沢で切断され不連続



大規模崩壊地内は崖錐は薄く、崩壊で緩んだ岩盤が残存

KH-3は全深度に褐色風化が認められる

地質断面図
（山腹緩斜面付近に厚い崖錐分布）

3. 災害危険性の確認結果（桑畑地区現道接続部）

■これまでの検討結果

【桑畑北側斜面の課題】(2号トンネル終点側坑口)

- 地形判読や現地踏査、現道トンネルの変状から、岩盤クリープが分布。

【対応】

- 極力、岩盤クリープを避けたルートを選定し、坑口や橋台掘削により岩盤クリープを除去する。
- 残存する岩盤クリープは、切土により本線とは分離され、その崩壊方向は計画ルートに向かわない。
- 計画ルート上で残存する岩盤クリープは、橋台前面土塊のみであり本線に影響しない
- 岩盤クリープの分布領域の詳細把握を行い、トンネルや橋台掘削による岩盤クリープへの影響に留意が必要。
- 坑口部切土の安定性に留意が必要。

